

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201054		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームちぐさの家		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町150-1		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成26年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・新たな理念を実現できる支援を心がけている。毎日必ず入居者様主体のレクリエーションを行い入居者同士の交流、自立に向けて支援している。週に一度はリクエストを受けつけイベント活動を実施している(焼きそば・タコ焼きパーティなど) インフォーマルなサポートと連携し外部との交流も積極的にを行っています。(例えば看護師の友人によるチェロ演奏、千種町在中の高校生の唱のショー等)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の理念と別に、ホームの理念である「あったか空気のやどる家」を掲げており、管理者と職員は利用者本位の実現に向けて努めている。利用者の希望や要望を叶えるためのスタッフ会議は、夜勤者も含め会議に参加できるよう開催の時間を夜間に変更して実施しており、カンファレンスにも時間をかけている。生活の中で自然に利用者が喜べる機会を増やそうと努めており、環境面でも利用者にとって居心地のよい共有空間と居室を提供できるように家族の協力も得ながら支援しており、自室の窓で鉢植えを育てるなど、楽しみながら暮らしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームとしての理念を今一度原点に戻り見直しそれを各スタッフに説明し、皆が納得する事で浸透出来ている。	法人理念とホームの理念を掲げ、職員で共有し行動の一つひとつにつなげて実践するように努めている。特別なことではなく、自然に利用者本位につながる支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校との総合学習での交流会や運営推進委員会での小学校長、自治会、民生委員との交流の場を定期的に設けている。	雪かきやホームのイベントなどで近隣住民と協力し合える関係が深まりつつある。小学校の総合学習受け入れなど地域の人がホームを訪れる機会を増やし、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員を通じ情報交換をしたり、運営推進委員会を窓口とした交流も図ってはいるが、地域の方とのコミュニケーションはまだ不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に施設での行事や日常の取り組みを報告し、地域の人々の意見を参考にして実施するように努めている。	運営推進会議を年2回開催し、参加者も小学校校長、自治会代表、民生員、地域包括支援センター職員、利用者家族、利用者などと多様である。ホームの報告内容から意見や提案を受け、ホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会にあんしんケアセンターの職員に参加して頂き連携を図れるよう努めている。また千葉市高齢施設課の研修に参加したり、生活保護者の対応についても随時社会援護課と連絡を取り合っている。	市町村担当者からの情報をもとに、参加できる研修等には積極的に参加している。また、地域包括支援センターからは運営推進会議への出席があり、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人スタッフには外部研修を通じ知識の習得を試みているが、研修人員数が限られているため受講出来ない状態にある。接遇に関してはフロア会議等で説明し納得してもらっている。	職員の言葉や対応など日常的な支援を検証する機会を会議などで持ち、情報を共有して身体拘束をしないケア及び虐待防止につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	適切ではない言葉掛け等耳にした場合は問題とし管理者にすぐ連絡。フロア会議で話し合っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護について知識を持ち、活用出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について、一項目ずつ説明し確認をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に現状を伝えると共に意見交換を行っている。また管理者のみで判断できない時は経営サイドに相談する。	利用者の意見や考えは日常的なコミュニケーションを通じて汲み取り、一人ひとりの希望要望意見を聞くようにしている。家族とは来訪時、便り、電話などを利用して意見を聞き、ホーム運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に面接を行い要望等の吸い上げを行っている。また管理者はリーダー会議を通じ職員からの意見や提案を聞く機会を設け確認している。	職員の意見は月一回のフロア会議や全体での朝礼、日常的な交流の中で汲み取るようにしている。法人代表者への意見も適切に管理者が提案として伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、良き環境条件を満たすよう心掛けているが、人員不足の中職場が求める人材を確保するのが困難な状況にある(賃金・時間・職場の地理的状況など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修参加を奨励し社内においては、看護師や経験豊富なスタッフからトレーニングを受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加し、交流や情報交換を行っているが、近隣の他グループホームの運営推進委員会等にも積極的に参加し情報交換をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居相談(面接)時、またはご入居時にご本人の主訴を十分に聞きケアプランに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居時に気軽に相談できる環境を作り、ご家族が何を求めているか一つ一つ丁寧に聞く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の要望を見極め、その時の状況に応じてサービスが利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に応じた生活リハビリを通じて共同生活者としての信頼関係を築く努力をしていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に外出時には協力をお願いし、来訪時には居室整頓などしていただく事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご家族はもちろんのこと、ご友人なども気楽に面会できるように努めている。	家族や友人の協力を得ながら利用者ごとに継続的な交流ができるようにしている。また、外食、イベント、日常の散歩や居室での回想法などを通し、馴染みの人や場の関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を考え、リビングでの座席を決めている。またスタッフが間に入り、入居者同士の間関係がうまくいくよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じていつでも相談、支援を受け入れる態勢作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活より本人希望を汲み取るようにしているが、ケアプラン作成時に再度ご本人に確認をし、それをケアプランに繋げている。	一人での外出を実現させるなど、職員が常に各利用者の声に耳を傾け、また寄り添って思いや意向を把握し、実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時にご家族、ケアマネから情報を収集し、それをスタッフ全員で共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は必ず管理日誌、介護記録、申し送りノートなどを読み、入居者全員の現状を把握するように努めている。また月一度のフロア会議で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のフロア会議の中で、職員全員でカンファをし、それをケアプランに反映しご家族に確認している。また月二回の往診Drと看護師にも指示を仰いでいる。	夜勤者も含めて話し合えるように会議の時間を夜間帯に変更した。家族の意見、要望も取り入れてカンファレンス、医療関係者参加のフロア会議などを行い現状に沿ったケアプラン作りを目指している。今後は職員全員にケアプランの目標の周知徹底を図りたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの見直しに活かせるように介護記録等を個別に記入し、必要に応じて見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の要望等、個別の要望に応えるためGPS等の媒体を使い外出の安全を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にある公園,コンビニ,ドラッグストアなどの使用や近隣のボランティア宅への訪問などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院以外にも、以前からのかかりつけ医やご家族の納得のいく医療機関での受診が出来るよう支援している。	利用者の希望する医療機関にかかることができるよう支援している。家族対応での受診の場合にも情報は共有し、月2回の協力医の訪問診療、希望者への訪問歯科、薬局来訪により利用者が安心して暮らしていける医療環境を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の体調の変化には特に注意を払い、異常があれば24時間体制で看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院では頻繁に状態確認する為、病院との連絡を密にしている。また他の病院での入院に関しては直接伺って情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化してきた際には、ご本人の意思やご家族の希望を尊重し、主治医と相談の上方針を決めているが、今後は重度化する前の早い段階よりターミナル期の過ごし方の意思確認をしていきたいと思う。	まずは入所時に重度化・終末期の対応について説明を行い、意思確認をしている。	今後は早い段階から本人や家族と話し合いの場を持ち、終末期のあり方を確認していくことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度、マニュアルに沿って確認しているが、事故発生時には事故報告を元に確認、実践している。しかし、定期的に訓練等は行っていないので今後は一年の計画を立て実践していきたいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署との公的な避難訓練を実施している。また毎月パターンを変えて施設独自の避難訓練も実施しています。	消防署との訓練の他にホームの独自訓練を毎月行っている。体で覚えることで災害時、緊急時に正確に通報、誘導できるようにしている。地域住民との連携も視野に入れ、日頃からホームのイベント時などに声かけをするようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、言葉掛けや対応には充分配慮している。	管理者自ら個人を尊重し、プライバシーに配慮した声かけを実践し、ケアの中で職員に理解してもらえるように説明をしている。日頃から人格を尊重する対応に努めており、全職員で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らを表せる方には自己決定できるように働きかけているが、自己決定できない方は普段の生活から感じとったりご家族から希望を聞いて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者のペースに合わせた支援を心がけている。概ね達成できているが、時としては職員の都合が優先してしまっている場合もあり、改善の方向には向かっているがまだまだ改善の余地が見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容にて整髪している。また居室担当による洋服・下着等のチェックをし補充も行っている。洗濯も適宜、声掛けしこちらで行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者のそれぞれの能力に応じ、食事の準備や盛り付け、食器洗いなどを一緒にやっている。	届いた食材で職員手作りの食事を提供をしているが、弁当を買ったり週1回リクエストの食事イベントを企画するなど食への興味、楽しみ、変化を体験できるように工夫している。またお盆を拭くなど、できることは利用者にも手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の栄養士がバランスの良い献立を作ってくれる。食事や水分の摂取量は日々記録し、チェックを行っている。また嗜好に合った飲み物で不足分を補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促し、ご入居者の能力に応じて口腔ケアを支援している。また訪問歯科とも連携し口腔状態の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し声掛けにてトイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。また失禁のある方には、いきなりリハビリパンツに変える事はせず綿パンツにパッドを使うことによって自立に向けて支援を行っている	チェック表をつけて排泄のパターンを把握し、適切なトイレ誘導で一人ひとりに合った個別の支援に努めている。毎日適度な運動と適量の水分補給を心がけ、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中でできる限り身体を動かして頂いたり、十分な水分摂取を促している。また、排泄チェック表に基づき薬剤投与を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立の方に限りはほぼ毎日。基本は一日おきに入浴していただいている。便失禁時には都度対応している。	入浴のタイミングなどはできる限り入居者の希望、意思に沿うよう努めている。入浴チェックシートを使用して体の状態も合わせて確認して、入居者の健康を見守りながら入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調に気をつけ、希望に応じて休んで頂けるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の服用している薬の名前や効能を閲覧できるようにしており、症状によっては主治医・看護師と相談の上、変更する等の対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や趣味を聞き入れ、居室内にラジカセを置く等、楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力も含めできる限り希望に沿って買い物や散歩を実施している。また年二回、ご家族にも参加していただいでバス旅行を実施している。	利用者本位を基本とし、近所のお店や美容院、知人の家などに一人で出かけられるよう支援をしている。そこでのリスクについては地域包括支援センターと話し合いを重ね、見守ってケアをしている。日常的な個別外出は難しくなっているが、天気の良い日はベランダで日光浴をしたり、家族の協力で外出する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来るご入居者には、直接お金をお渡しし買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば自由に使用していただいている。手紙も希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日掃除をして、清潔を保ち居心地の良い空間になるように心懸けている。また季節感をだすように毎月カレンダーを一緒に作り飾っている。廊下には、外出時の写真を貼って楽しんでいる。	リビングは落ち着いて過ごしやすい場所になるように配慮している。共用部分には外出時の写真や利用者の特技を生かした掲示物、職員と一緒に作った折り紙やカレンダーなどが掲示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置くことで、気の合う仲間と会話を楽しんだり一緒にテレビや新聞・広告を観たりする場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のご家族はもちろんのこと、ご友人なども気楽に面会できるように努めている。使い慣れた家具をお持ちいただき、ご自宅と同じように過ごしていただけるようにしている。	住み慣れた自宅から気に入ったものを持ち込み、本人が落ち着いて過ごせるようにしている。出窓に鉢植えを置いて育てたり、仏壇を置くなど本人が自宅と変わらない生活ができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置により安全を確保しつつ、自立した生活が送れるように工夫している。		